

当報告の内容は著者の著作物です。

フィールド言語学ワークショップシリーズ・2012年度第1回テクニカルワークショップ
**フィールド言語学における動画データ：収集の意義と、
有効活用のための加工**

開催日時：平成24年7月14日（土曜日）13時～17時

開催場所：AA研3階マルチメディア会議室（304号室）

講師：塩原朝子（AA研所員）

麻生玲子（東京外国語大学大学院博士後期課程・日本学術振興会特別研究員）

ワークショップ概要：

本ワークショップでは、AA研所員の塩原朝子氏によるインドネシアにおけるフィールドワークの状況の報告と、東外大学院・日本学術振興会特別研究員の麻生玲子氏によるELANを使った動画へのアノテーション付与、およびDVD Flickを使ったアノテーションの字幕への埋め込みの解説を通し、言語調査における動画データの目的、方法について考えるとともに動画の加工方法を実践的に学んだ。受講者は8名であった。

受講者からの感想：

ワークショップ終了後、受講者から次のような感想が寄せられた。

ワークショップに参加して良かった点

- 色々な言語のフィールド研究に関係している研究者の意見を聞き、データ処理の技術の指導を受けられたこと。
- ELANが非常に面白いソフトだということが分かった。自分でもいろいろやってみようと思う。
- なんとなくだが、ELANの使い方が分かってきた。今回のワークショップの続きを是非やってほしい。
- 動画データの作成を実体験できたことがよかった。
- ELANを実際に使ってみながら操作方法を覚えることができてよかった。また、映像資料の編集が思っていたよりもずっと簡単にできることが分かったのも収穫だった。
- 今後の調査で、今回学んだスキルを是非活用したい。
- hands onでとてもよかった。sampleをたくさん見ることができたのもよかった。

- 初めて使うソフトなので不安があったが、皆で一緒に作業を行う形のワークショップだったので、分かり易く学ぶことができた。問題を共有し、先にできた人にやり方を聞くことができるというところがよかった。

ワークショップで改善すべき点

- 受講許可の返答をもう少し早くもらえた方が良い。
- できれば、動画と音声の同期までやってほしかった。

報告書作成：長崎郁（AA 研特任研究員）